

NPO 法人 芦安ファンクラブ通信

第 34 号
春夏号

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ
事務局 南アルプス市芦安戸倉一五八九・八・大滝要造
〒〇五五二八八一・二五三一 F 〇五五二八八一・二五三三

URL=http://www.cstv.wakwak.com/~kitadake/
E-mail=trantara@blue.ocn.ne.jp

フルーツ山麓フェスティバルで、ハイキングツアー実施

南アルプス市フルーツ山麓フェスティバル二〇〇九が、六月七日、楡形総合公園で開催されました。このフェスティバルは、多くの登山家に愛される南アルプスの魅力と年間を通してフルーツ色(食)にあふれる果物の魅力を、全国に発信し、南アルプス市のファンづくりの核になることを目的に実施し、今年で2年目になります。

芦安ファンクラブでは、山岳部門を担当し、会場内では、パネル展示、立体地図、山歩きや背負子体験等の山岳の魅力発信、親子で楽しむゲーム、そばまんじゅうや山岳用品の販売等を実施しました。そして今年初めて、会場から出て、実際に自分の目と足で南アルプスの魅力を知ってもらおうと、ハイキングツアーを企画実施し、三十五名の参加者がありました。コースは、白根三山の絶景ポイントで知られる夜叉神峠と池の茶屋(楡形山)。甲西支所に集合し、人気を集めた夜叉神峠が、班、池の茶屋(楡形山)が一班に分かれて出発しました。

夜叉神峠班は、各班ごとにマイクロタクシーに分乗し出発、登山口で、登山にあつたつての注意や柔軟体操をしてから、歩き始めました。登山道沿いの樹木や植物、芦安のかつての生活を物語る炭焼きの跡など、道々説明しながらゆつくり登りました。緑深い木漏れ日の道を小さな花たちや鳥の声を傾けながら歩くのは爽快そのもの。一班六〜八名の小班で、遅



植物観察も楽しそうです

れがちの人にペースをあわせながら、一時間ほどで峠に到着。残念ながら白根三山は雲の中でしたが、幸運にも雲の間から、小梨(大ズミ)の花を前景に、残雪に輝く間の岳を望むことができました。地元芦安の旅館さんの心のこもった昼食のお弁当が好評でした。下山は遅れる人もなく、順調に登山口に到着しました。なお、池の茶屋班は、楡形山に登り、静寂に包まれた原生林や植物を観察しました。



夜叉神峠でハイ、パチリ

午後は、各班ごとにフェスティバル会場に立ち寄り、それぞれ自由に会場内の催しを楽しみました。山岳エリアの展示や販売はもとより、果物など農産物の直売エリア、地元商店や団体の販売エリア、メインステージやよさこい祭りなどを思い思いにめぐり、出発地の甲西支所に戻って解散しました。

今回初めてハイキングツアーを実施し、会場から外に出て、南アルプスの前衛の山に登ることで、南アルプスの魅力を実際に膚で感じていただきました。会場内の展示や催しにも参加することで、南アルプスの山岳やフルーツの魅力を、より深く知っていただけたことと思います。参加者の方



カモシカ君も登場です



メイン会場では登山ゲームが大人気でした

からは、また紅葉の頃来たいといった声も聞かれました。出発地が本会場から離れたことで、色々不便もおかけしましたが、こうしたハイキングツアーを、来年もぜひ実施していきたいと思えます。
芦安ファンクラブ 大滝要造 記

ヒマラヤ8,000m峰 天空の頂をめざして

《加藤慶信追悼展》

加藤慶信君は一九七六年南アルプス市十日市場に生まれ、四周を山に囲まれた美しい自然環境の中で育ちました。中学、高校時代はバレーボールやサッカーに興じ、明治大学に進学して先輩の冒険家植村直己氏への憧れもあって山岳部に入部。

明治大学山岳部は長い伝統に支えられ、OBでつくる「炉辺会」と共に、日本で最も幅広く重厚な活動を展開することでも知られ「大学時代は訓練の場」として、登山の基礎から体力作りまでトレーニングと日本各地の山々で実体験を通じて、徹底的に鍛え上げてゆく名門山岳部です。加藤君はこのような山岳部で、タフな体力とレベルの高い登山技術を備えたアルピニストに育ってゆきました。

19歳の夏、インドのガングスタン（六一九三m）に登頂、初めてのヒマラヤで「世界にこんな場所があるのか」と激しいカルチャーショックを受け、次は8000m峰へと憧れてゆく加藤君は理屈ではなく完全にヒマラヤの虜となってしまうのです。

以来冒険家の誰もがそうであるように、「より高き、より困難」を求めてヒマラヤに向かい、明治大学山岳部と炉

辺会の八〇〇〇m峰十四座の完登を目指し「ドリームプロジェクト」にも参加して、一九九七年から二〇〇八年までに、マナスル（二回）、ガツシャーブルム一、二峰、ローツェ、アンナプルナー一峰、エベレスト（二回）、チョーオユ一、シシヤパンマの八座十回の登頂を



果たしました。

二〇〇八年十月一日、ガングスタンから眺めて、その姿に魅せられていた、チベットのクーラカンリ山頂に向かう途中、突然の雪崩に巻き込まれて、あ

まりにも短い生涯を終えました。学生時代からいくつもの厳しい登山を通じて、冬の八〇〇〇m峰登頂や縦走を目指し、これから自分自身の登山を創り始め、ヒマラヤを登り続けるはずだった矢先の惜しまれる死でした。

世界の若き登山家のエースである加藤君は、スケールの大きなヒマラヤに恋し、常に謙虚で誠意を持って人に接する好漢であり、人望厚く誰からも愛されました。「加藤と同じレベルの登山家は今後いくらでも出てくるだろう。しかし彼の人柄に勝る人物は現れない」と仲間達は言います。また、この広い世界のどんな場所よりも、自由で希望にあふれるヒマラヤの峰々で、厳しい登山を繰り返しながら、加藤君の残した珠玉の文章は、あらゆる人々の心を揺さぶることでしょう。南アルプス芦安山岳館と明治大学で



は、このような加藤君の短くも波乱に満ち充実した生涯を記録、写真、地図、めぐり会った人々の追悼文、それに彼と息吹を共にした装備を展示し、不世出のヒマラヤニスト加藤慶信君の冥福を祈り、偉大な業績を伝えるとともに、山に登る真摯な姿や人間性を紹介し、市民の皆様や南アルプスを訪れる人々に、加藤君の足跡を通して山と登山の素晴らしさ、深さを知っていただくために、「ヒマラヤ八〇〇〇m峰 天空の頂をめざして —加藤慶信追悼展」を来年の五月三十一日まで開催しておりますので、是非お出かけ下さい。南アルプス芦安山岳館 館長 塩沢久仙 記

満開のキタダケソウに
参加者も感激 観察会実施

六月二十七日から二十八日に行われたキタダケソウ観察会は、参加者が二十八人で、他に環境省から三人とNHK記者一人が同行した。

今年の開山祭は、梅雨の合間の晴れ間で、この時期にしては珍しく良い天気になった。

開山祭のあと、ソバとモモを戴いてから広河原山荘に集合した。今回は、一班が四く五人の小人数とし、七班編成とした。

山荘前で、若干の打合せのあと準備運動をして班ごとに出発。今年は、大樺沢の残雪が多いので、左俣から八本歯のコルへのルートは諦め、草滑りコースを往復することにした。従って、北岳山頂を二回踏むことになり、時間もかかるので、二日目の出発を早めて(五時発)、不必要な荷物には白根御池小屋に預けることにした。

(広河原く白根御池小屋)

天気が良く森林帯の中は実に爽やかに感じる、まず、クリンソウの出迎えを受け、沢コースとの分岐で休憩。ここからの尾根道は急坂であるが、セミや鳥の囀りを耳にし、足元のギンリョウソウ、キノコドリを探して歩く、急坂を頑張つて登りきり休憩。トラバース気味の登山道を少しで白根御池小屋に着いた。池は半分以上が積雪に覆われ、今年の雪の多さを感じさせる、見上げる北岳や池山吊尾根側の沢も雪が沢山付いていた。早速生ビールを注文する者もいた。

(白根御池小屋)

夕食前に、大部屋で輪になり自己紹介をして、持参した酒やつまみで宴会となつ

た。夕食後に、名取先生の高山植物の話聞き、質疑応答等が熱心に行われた。(御池小屋く肩の小屋) 御池小屋からの登山道は、最近雪が溶けて、植物の芽吹きが漸く始まったばかり



り、ミネザクラの花がまだ名残咲き、草すべりには花では一番早いシノウジヨウバカマが花を付け、登るにしたがつて、シナノキンバイ、ハクサンイチゲ等が咲き始め、クロユリはまだ堅い蕾、全般的に開花が遅れている、稜線直下には積雪があり、雪の少ない場所を選んで登った。

稜線に出ると展望が開け、南には、吊り尾根の上に富士山の端正な姿が浮かび、東に鳳凰三山、甲斐駒、その向こうに八ヶ岳、奥秩父の連山が望める、北には、仙丈ヶ岳が大きな山容を鼓舞している。梅雨時のため陽射しはないが、風もなく北側の斜面に広がるお花畑には、キバナシヤ

クナゲ、ミヤマダイコンソウ、オヤマノエンドウ、チシマアマナイワウメ、ウラシマツツジ、ハクサンイチゲ、シナノキンバイ等色とりどりの高山植物が競って咲いている。肩の小屋では森本さんからコーヒーをサーブしていただいた。

(肩の小屋く頂上くキタダケソウ群生地)

一、二班の一〇名は三班以降のパーティーが大分遅れていたため、先行して頂上へ向かった。小屋から両又分岐までの急な稜線は、所々残雪があり、雪渓の末端の雪が溶けて凍り、滑りやすいので注意して登る。北岳山頂の南側には吹き溜まりの雪が山頂を半分くらいに狭めていた。

下りで一番心配した北側の斜面に、雪は付いていなかったため、一応用意したピッケル、アイゼンは使用しなくて済んだ。

北岳山荘と八本歯コルの分岐点の南面の草付きに、キタダケソウが咲いていて、初めて見る人は喜んだ、トラバースルートまで下ると、キタダケソウは正に今が満開で我々を迎えてくれた、満開の時期に訪れることは滅多にない。ミヤマダイコンソウ、ハクサンイチゲ、オヤマノエンドウなどを散見するが、夏山シーズンを迎える前に他の花に先駆けてキタダケソウの白く清楚な花が一面に咲き乱れる姿に一同感動し、何回も何回もシャッターを切った。

(その他)

大樺沢左俣の雪渓が多く、落石や寒さ、滑落等の恐れからこのルートを避け、北岳山頂を二度踏むという長い行程になった。その為、白根御池小屋に不要な荷を預けるなどして、荷物については必要最小限にしたが、体力的に個人差がありトップとラストで大分差がついてしまった。現状把握と連絡調整等のための通信手段として、トランシーバーが有ればよいと感じた。



芦安ファンクラブ 望月 記

南アルプス市生涯学習講座

「初めての山登り教室」開催

今回、南アルプス市教育委員会生涯学習課主催の榎形山登山に、芦安ファンクラブのメンバー五名、各班の班長として榎形山に登りました。四回の座学を修了しての実践登山、七月十八日(土)今年梅雨が早く明けたのですが、当日は、朝から曇り空でした。山の参加者は、二十四名、リーダー、井口さんを先頭に、六班に別れて十時四十分、池の茶屋登山口を出発しました。さくら峠を登り初めて間もなく、唐松林の中からカモシカが私達を出迎えてくれました。カモシカは逃げもせず最後の班が通り過ぎるまでその場所にいたそうです。さくら峠には、グンナイフウロ、ミヤマオダマキやたくさんの花が咲いていました。途中榎形山三角点では三角点の役目や、北岳、間の岳での三角点改理の様子や、北岳、間の岳に百年以上風雪に耐えていた三角点が、芦安山岳館に展示してあることを話しました。「山岳館には行った事があるが、三角点は見えない。今度行った時にはぜひ見たい。」と言ってくれた人が何名か居ました。三角点を過ぎ山頂に進みました。途中かすかに富士山を見ることが出来ました。十一時三十五分、山頂到着。山頂で班ごとに写真撮り小休止しました。山頂を出発し裸山に進みます。参加者は、途中マルバタケブキの群落を見て感激、唐松に垂れ下がるサルオガセにも感激、樹齢三百年の大唐松に感激していました。十二時三十分、裸山到着、昼食。裸山では、市みどり自然課が調査をしているアヤメを保護するネットの説明など致しました。裸山周辺ではコウリンカ、

ミヤマキンポウゲ、キノチドリなどの花が咲いていました。十三時、裸山を出発アヤメ平に向かいました。ギンリョウソウを写真で見ましたが本物を見たことがないと言う参加者が居ましたので何処かに咲いているのではないかと探しながらアヤメ平に行きました。樹林帯の中にひっそり咲いているギンリョウソウを見つけました、実物を見たその方はとても感激してくれました。辺り一面のマイズルソウはまだ花が咲いていません。



出迎えてくれたカモシカ君

十三時二十五分、アヤメ平到着。仮設トイレが設置してあったのでトイレ休憩、アヤメ平では、去年設置した柵の中で今年アヤメが咲いた事を説明しました。十三時三十分、アヤメ平出発、原生林を歩き池の茶屋に向かいます、途中クサタバナの花が咲いていまし

た。十四時三十分山頂、十五時二十分、池の茶屋に到着しほっとひと息。リーダーの井口さん、ご苦労様でした。一人の脱落者もなく無事帰る事が出来ました。



柵の中で開花したアヤメ

今回の登山は、服装などの装備や登山に参加する心構えはほぼ完璧であり、四回の座学の成果であると思えました。私達、登山者は(遭難は絶対に起こさない。)と言う信念を持ち、事前の準備や登山中の危険防止に十分注意を払い、慎重な行動を取り、楽しい登山をこれからも続けて行きたいと思えます。今回、お手伝いしていただきました、井口さん、塩澤さん、渡辺さん、みどり自然課の皆様ご苦労様でした。

芦安ファンクラブ 依田 正 記

今年も開山際で安全祈願

六月二十七日実施



多くの参加者のもと盛大に行われました。

よみがえった芦安のホタル
小学生、関係者の皆さんありがとう



6月末～7月初旬にかけて懐かしい輝きを見せてくれました

関西から四日間の白峰三山を楽しまれたお二人煮道中記の宿題をお願いしたところ、早く原稿を送ってくれました。紹介します。

「一歩でも足を出せば、標高は自然と上がる。」

私達の山選びはチョット違うかも知れませんが。

『「こえくやん」めっちゃ綺麗』『アカンやん！中級者向きやで！』『ほんまや』『こんな鎖いっぱい怖いわ』『無理無理』『お花畑ありそうやで』『どこ？』『北岳？』『どこ？山梨？』『南アルプスって書いてんで』『南アルプス天然水』『大滝秀治さんいるかな』『百花練乱っってお花スゴいんちゃう？』『日本で二番目に高い山なん？』『しらん』『あ！初心者いける？』『健脚者向きとは書いてないけど』『色タルトがあんのかも』『白根三山縦走って書いてるから稜線あるけるんちゃう？』『こあたってみる？』『お花畑あるしええんちゃう？』『決まりやな！』

こんなアホな決め方ですが、「ここからスタートして北岳のことを少しづつ知る」とになりました。私達は決して健脚ではありません。私達はそう年でもありません。でもマッスルマンでもないし、自分の体にムチを打って喜ぶタイプでもありません。コースタイム？そんなの知りません。

きつと山のことをよく「存じの皆さんなら」まで読んで「山をなめてんな！」と思われているでしょう。

でも…お花見たい！雷鳥さんも見たい！緑々しい雄々しい山々！青い空にも立ちたい！そういう気持ちで…コースタイムを気にしたり、百名山を制覇！とかゆうより山を感じている…！…って私

は思うんです。だから、安全に登山を楽しむために、私達の登山にはガイドさんが不可欠なのです。

ガイドさんを決めるにあたり、今回はかなり考えました。

ツアーでは二十人とか三十人もいて、ついで行くのがようやと。説明も聞かないし、お花をじっくり見ながらのんびりくなんてできない。好きな場所で写真も撮れないし。だから個人でガイドさんを探すことにしてみました。

たいていインターネットで『北岳 ガイド』と入れればヒットしそうなもの…：なかなか見つかることができず、ようやく観光協会の下の方に『芦安ファンクラブ』というのを見つけ連絡をとることができました。

お花畑をじっくり堪能したり写真を撮る時間も欲しい・お花についていっぱい説明を聞きたい、終わったかもしれないけどなんとかキタダケソウを一輪でもいいから見たい・自信がないので三泊四日でゆっくりできれば白根三山縦走をした…でもいつもコースタイムは大幅に超えている！本当に遅いんです…！皆既日食は見れますか？…二人で一人のガイドさんはいつたいていくらになりますか？キッチンリおしえてください…と、お願いをいっぱいしました。無理！といわれることも多いだろうとおもっていましたが、皆既日食以外は私達の思いをできるだけプラスの方向にむけてくれるような返事がいっぱい返ってきたので、安心して自分の体力以外に心配なものは何もなく、芦安に向かうことができました。登山前日は少し標高に慣れた方が良いとのアドバイスで、昼には芦安入りしました。前日の宿泊は『北地蔵』さん。ホッペや夏らしい素敵なお料理を食べて、しばし美

味しい物にさようならをしました。登山当日、ガイドさんの車がサツウと現れ、車にザックを置いた瞬間少し緊張してきました。車はどんどん登り、趣のあるトンネルを抜けると広河原にできました。

ザックを背負い、揺れる長い橋を渡ると緊張はもっと強いものになりました。いよいよ出発です。大様沢から向かう予定でしたが残雪が多く危険とのことで右のルートから向かいます。とにかく今日は登りです。知っています。知っていました…：だけど息切れです。ひどい息切れです。思っていた以上のひどい体力です。次第に自分が情けなくなっています。その気持ちの方がより自分をしんどくさせてゆきます。

『痛！…なんかチクツとした！刺されたかも』『でた！親友の虫難！…！どこに行っても何かの虫に刺されています。今年は左の險でした。白根御池小屋へ到着です。』

本日はこれまで…となりやくこつちのもんだ！俄然元気がでてきます。うわあ！ピッカピカの山小屋！！笑顔の素敵な働くお姉さん！とても優しい御主人！フカフカのお布団！超感激！水洗



たくさん咲いていたキタダケソウ

トイレ！！黒霧まで売ってるう…！こつなったら…おくい！酒だ！酒だ！どんちゃん♪どんちゃん♪

『明日四時三十分！飯だから四時に起きればいいよ。』は…ええ！…四時？』

そうや…山小屋の朝は早うござんした。自然に起きたのは三時半頃でした。天井に窓から差し込む緑の光。丸が綺麗に並んで。点いたり消えたり。エンジン音？トラック？あれ？…こ山山中…ん？二日目。

お天気は曇り。親友の険は腫れ。タカネグンナイフウロと白根御池を背に草すべりを登って行きます。『御池が見える間は登りがキツイから』『紫の花って綺麗な』『可愛いな』『…』『…』『…』『わつちや…！まだ御池見えてるがな…！』『この辺りからお花畑が出てくるよ！』『あゝ神様。ガイドさんの天の声です。私の好きなシナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ・ミヤマキンバイ・シナノキンポウ…ん？』

人間、酸素が薄いと頭がまわりません。『お花畑は下から見ると上から見た方がもっと綺麗だよ！』『ガイドさんのその言葉に釣られて自然と登っていきます。お花畑と自分の登ってきた道のりを見下ろして…シーンときます。また歩き出し、息切れ。』一歩でも足を出せば、標高は自然と上がる。『ガイドさんのこの言葉は後の四日間も私を支えてくれました。』

小太郎峠まで来ると明らかに植物が変わってきます。むき出しの岩から小さくけなげなお花が私を見て！『って話しかけてきます。目を奪われるけどこは危険な岩場地帯！ガイドさんから飛び交う号令『集中！集中！』

この四日間ですぐに集中と言わせてしまったらどうか…。

この後もこの号令は私達。パーティーの想いの言葉となつていきました。

肩の小屋へ到着です。三〇〇〇mという看板に心が弾みます。この旅、初の登山バッジget!!

実は私達…登山バッジ集めています。登山バッジといつのはいいもので、荷物にならない自分へのお土産。家に帰って今まで集めたものと混ぜ合わせて地区別に分けてみたり、同じ感じの物で分けてみたり、お気に入りから並べてみたり…ムツ。

登山バッジを眺めながら温かいコーアをよばれました。さすがに三〇〇〇m。ここまで来るとすぐに汗は寒さへと変わってゆきます。コーアをコーアをもう一杯ください…。私の中で肩の小屋は、コーアのおいしい喫茶店。ってイメージになりました。でも、飲んでも寒い！対策はまた歩くのみ！

いよいよ北岳山頂を目指します。お花の咲く岩場をひたすら登ります。

岩場が特にへつたくそな私はガイドさんの指導を受けながら短い足でなんとか登ります。息が苦しい。立ち止まる。呼吸を整える私をガイドさんと親友が見守ってくれます。人のペースに合わせて登るといのはしんどい。後方になればなるほどしんどいといのは経験から知っていたので、先頭を歩かせてくれるガイドさんと親友の心使いにもゾーンときます。『頂上が見えてきたよ！もうちょっとだよ！頑張ろう！』ガイドさんの声かけで頂上が近いことを確信します。

『あー空が晴れてきたよ。真上！』親友の声に見上げました。鋭い三日月が霧の中を照らして一瞬にして消えた。…日食だ！…！

二〇〇九年七月二十二日は北岳でも日食が観測されました。

遮るものは何もない三〇〇〇mのこんな近くで日食を見る事ができるって…。おそつてくる感動の中、北岳山頂は目の前。これほど気持ち満たされることってあるんや。霧のせい、強い風のせい、日食を裸眼で見たせい…自然と涙が

でてきました。三一九三m。北岳山頂。ガイドさんと強く握手を交わして、ついに空に立ったんだと実感しました。登頂と共に空は晴れ、山々が姿を現しました。自分がどれくらい高い所にいるかということが、やっとわかりました。



トラバース、コーア～

親友のほころんだ顔を見て、いい笑顔だなーと思いました。しかし、山のピークと共に、険の腫れもピークに。写真の立ち位置は決まって右斜め四十五度、そんな

な記念撮影を経て、しばし弁当休憩です。

吹きぬける気持ちいい強い風に、汗もしんどかった思いも、親友の弁当も飛ばされて行きました。

弁当をひらいたが思いました。ガイドさんと親友がいなかったら、ここまで来れなかったら。誰かといっているって力になる。誰かと感動を共感できるって素晴らしい。トラバース道から北岳山荘へ向かいます。『集中！集中！』ここでけたら北岳にただけになっちゃうよ！『おーい！山田君！ガイドさんに座布団一枚！今のダジャレ、ここが草すべりならやすべりやな。アカン！集中！集中！』

『はい！見て！キタダケソウだよ。』きやわい。白い花は少し透き通っているようにも見え、雨露をはじく丸みのある春菊のような葉っぱ。世界にこだけの花はとも恐ろしい崖づぶちに群れを成して咲いていました。恐怖感と感動で興奮しているのに、体の力が抜けていくような不思議な感覚がしました。本日も日没前には山荘へ到着できたと安堵しながら、北岳山荘へ到着です。到着後、とりあえずビールを堪能。親友はまず診療所を堪能しました。窓から見える風景は、赤く染まる雲海より遥か高くそびえる富士山。最高の景色をつまみに、山小屋の早い夜がふけていきました。三日目。

お天気は曇り。親友の喉は腫れ。間ノ岳登頂を目指して歩き出します。白・黄色・紫・桃色、百花繚乱の稜線散歩を楽しみながら。あー大好きなイワベンケイがたくさんある。

『あの岩の向こうのもう一つ向こうにピークがあるからまだ見えない。』結構

なアップダウンの繰り返しで息切れもしますが、気分は上々です。空が少し晴れだしました。霧で北岳のピークは顔をだしませんでしたが、山裾の大きさからどれだけ高いか予測はつきりました。『雷鳥さん！』我がパーティーの野鳥の会長こと親友が叫びました。

お母さん雷鳥は首を長くして音楽でも聞いている感じで優しい表情をしています。近くにはあかちゃん雷鳥達がお花畑をトコトコ歩いていました。ハイマツが少ない所だったので意外だなーと思いましたが。また意外にも一番興奮していたのはガイドさん。どんだけ興奮していらした写真撮っていました。ついでに私のカメラも渡しました。間ノ岳山頂。三一九九m。『一回の登山で二番目に高い山と四番目に高い山を制覇するなんてすごいね！』

ええ！？間ノ岳って日本で四番目に高かったんだ。『天気も回復しそうだし、少し農鳥まで遊びに行ってみようか。』小屋までとりあえず行ってみようかな。『任せる』任せるとは言ってみたものの、達成感に満ちていたので農鳥まで行く気分ではなかったけど、二人について行くしかないという感じでした。ガレ場をちよつと下山…もつと下山…めつちや下山しても農鳥小屋は見えませんでした。ガレ場の下山は行程の中で一番キツイものになりました。このガレ場を転落せず集中して降りて、また登ると思うと気が遠くなりました。『ええ？どっかえ！』あれ？…まだまだやん。『ついに愚痴が出てしまいました。今でもこのセリフは後悔しています。いよいよ農鳥小屋に到着…』という時に、最後の階段でコケてハイマツに突っ込みました。すみません。恐ろしい顔の二匹の甲斐犬に吠えられましたが無視してやりました。農鳥小屋では登山

バツジをget!!!こんなに苦労して手にしたバツジは初めてで、思い出の品になりました。帰りは息切れはひどくなかなか進まないけど、気持ち元気でした。ガイドさんはタンタンと軽やかに移動。私はズシズシと数センチ。息が苦しく頭はもうろうとしますが、あの言葉が私を支えます。『一歩でも足を出せば、標高は自然と上がる。』

小さなお花もあつたけど、写真はガイドさんに任せて私は登りに集中しました。『雷鳥さん!!!』『見て!雷鳥さん!』雷鳥さんにはいっぱいお会いできました。 やつと広い所まで到着し、弁当休憩です。途端、親友はザックにうなだれてしまいました。お決まりのシャリ切れ!いわゆる低血糖症状です。あんなに弱々しい親友を見たのは初めてかもしれません。親友はガイドさんに弁当を食べるよう怒られていたのが、めっちゃ笑いました。食べるって怒られるのって子供以来じゃない?!

弁当を食べながら景色を見ると、恐ろしく下に農鳥小屋がありました。後に、ガイドさんより心に染みる言葉を頂きました。

『今回の目標のひとつに白根三山縦走ってのがあつたでしょ。少しでも農鳥に登らせてやりたかつたんだ!』と。

はあ!...息をのみました。だって、つがいの雷鳥さんが目の前に!...あまりの感動に動きが止まりました。ガイドさんのシャッターは止まることありませんでした。その後、本日二回目の間ノ岳登頂!そして、本日も日没までになんとか間に合つて北岳山荘へ帰宅しました。夜は本日も酒場をオーブン!!!山の話や、それぞれの話、出会うまでの印象と第一印象など...楽しい夜はやはり早く更け

ていき、あと五分で消灯になってしまったため泣く泣く布団に納まりました。昨夜までは綺麗にしていたザックの整理も慣れてくるとどうでもよくなつてきます。荷物は何となくちやちやのまま眠りにつきました。翌朝、親友は水難に。大雨で雨漏り。親友は診療所の人達におしまれ?ながら北岳山荘を後にしました。二回目の北岳登頂を経て、下山へ。植物が大きくなっていくことが悲しくなってきました。また北岳にきたい。新たな北岳に期待をもつて広河原へ到着。今回の旅が幕を閉じました。芦安の皆さん、お世話になりました。

『めしやす』という読み方さえわからなかつた私が、今は芦安のために何かできないかと思つています。これってスゴイ事のような気がします。山を守る皆さんが、人の心に清らかさも与えてくれているのだと思います。芦安に今以上の自然が保たれることを確信して。

記 北岳を満喫したY・森川さん

「アラサー命かけの北岳挑戦」

私たちの登山のテーマは「高山植物を観ながら楽しく登ろう」という感じ。お花がたくさんあつて日本で二番目に高い山ついで「南アルプス北岳に決定されました!欲張つて白根三山を制覇したので!芦安温泉でガイドさんと待ち合わせをし出発。今日は三々四時間の登山ついでひと安心。ブナの原生林を越えパラパラ雨も降ってきた。登り、登りであくキツイと思つた頃に白根御池小屋に到着。山小屋のイメージとは違いペンションの様な建物。トイレは水洗で臭わない。部屋も二人の貸切でお布団もフカフカ、快適。まずはガイドさんとビールで乾杯。

「山で飲むビールは格別や〜」ガイドさんにすすめられるまま...程々に飲み、今日は早めにおやすみなさい。明日は北岳登頂、晴れますように!朝、目が覚めるとどんより...パラパラ降つていた。天気は悪くてもテンション上げていざ、出発。途中チラホラ、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイが咲いていて癒される。小太郎分岐を過ぎるとお花畑が広がってきた。アオノツガザクラ、イワカガミ、テンション上がるわ!。しかし天気はスッキリせず体温も下がってきた。北岳肩ノ小屋に到着。あつたかいコアラを頂き、体温上昇。登山バツチをget。

久々のテレビで今日は皆既日食やつたんやと気付く。この天気じゃ観測は厳しいだろうなと思いつつ登頂を目指した。途中雨もやみ始め、雲の間から空の青さも見えてきた。空を見上げると日食が見えた。「ワー!ー!ツ!」☆身体が疲れが吹っ飛び足が軽やかになった。北岳登頂!三一九三m。頂上に着いた瞬間視覚がパ!と晴れ富士山も顔を出した。贅沢な景色の中で腹ごしらえ、北岳が私達を歓迎してくれるようなシチュエーション、感動した。北岳山荘を目指し出発。富士山を眺めながら「集中!集中!」。ガイドさんから「キタダケソウだよ!」との声。

さんから「可憐な花の大群落、二度目の感動!今までしんどかつた疲れを忘れさせてくれた。今年は雪解けが遅くキタダケソウが観れてそうだ。本日お世話になる北岳山荘が見えてきた。まずはビールで乾杯。今日まで観た高山植物をガイドさんと復習。たくさんみたんやな!窓からふじさんが見える。夕焼けに染まつた富士山をパチリ。今日は一生分のキレイなものを観たようだ。今日も早めの宴の後、爆睡。三日目の今日は間ノ岳、農鳥岳を目

指す予定、あいにくのくもり模様。北岳山荘から少し離れたハイマツからお初雷鳥さん、ヒナを連れた親子でした。めっちゃカワイイ。お花はイワヒゲ、ミネズオウ、ツガザクラ、タカネツメクサ、タカネヤズハハコやつと覚えました。カワイ



間ノ岳も二度目の登頂やで〜

いお花がいっぱい。めっちゃカワイイ。北岳をバツクに稜線散歩。三一九九m間ノ岳登頂!日本第四位高峰制覇!のんびりする間もなく農鳥岳を目指す。農鳥岳までは足場が悪く岩れきの斜面をシグザグに下る。このへんには氷河周辺の特徴的な地形が残されているとのこと。その間にもミネズオウなどかわいいお花達が私達を励ましてくれた。取り合えず農鳥小屋を目指すことになったが農鳥小屋が見えない。気が遠くなる思いの中、農鳥小屋に到着。まずは目的の登山バツチをget。

回の登山が辛い思い出になってしまつたので今回は農鳥岳はあきらめましょう」の一言で引き返し決定。確かに先が見えず私達は限界だった。

帰りは元の岩れきを登ることに。今回の登山で一番辛かったのはここだった。

どうやらお腹が減っていた様子、腹こしらえをしたら意外と元気になった。稜線を私達だけの貸切状態で歩いた。「ステキ」途中、またまた雷鳥さん親子、夫婦とご挨拶。ガイドさんいわく、一日に五回も雷鳥に合うことは珍しいとか。帰りは軽やかだった。今日も北岳山荘へ宿泊。今日は最後の夜ということで、なんとなく寂しい気持ち、宴はさらにすすみ、話しも弾んだ。やっと山の生活に慣れた頃に帰路やなあ……。最終日の朝は雨漏りで目が覚めた。今朝も雨模様。二日間お世話になった宿の人達に別れを言い、いざ下山！途中、蕾のキタダケソウ、キタダケナズナをパチリ。大樺沢の雪解け水が冷たくてきもちいい…。雨もやみ視界は晴れてきた。タカネバラ、ヒヨウタンボク、ハクサンフクロ、キツリフネ。少し

写真を撮る余裕も出てきた。ガイドさんのお花の説明を聞きながら下山。広河原が見えてきた。「ゴースール」

四日ぶりのお風呂を「らんたん」でいただく。極楽やわー。トトロの樽風呂がステキ。今回の登山では「一歩一歩頑張れば可能性がある」ことを教えてもらった。今までつまらない事でクヨクヨしていた自分にさよならを言った。ガイドさんのおかげで目的達成。また冬山で会いましょうと南アルプスとガイドさんに別れの挨拶をした。

記 違う山から北岳を見たい W・山口さん
二人とも賛助会員になってくれたのは言うまでもありません。ありがとうございました。

第22回 南アルプス・芦安

登山教室

あなたはどちらの山へ？

- ◆ 甲斐駒ヶ岳・・・紅葉真っ盛りの雄峰を訪ねる
- ◆ 栗沢山・・・甲斐駒ヶ岳のビューポイント

「NPO 法人芦安ファンクラブ」(代表 花岡利率)は、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術、地形や地質、動植物など登山に必要な知識を深めたり、山の天気や地図の読み方を学んでいます。今回の登山は、紅葉真っ盛りの雄峰「甲斐駒ヶ岳」を訪ねる「甲斐駒ヶ岳コース」と甲斐駒ヶ岳のビューポイント「栗沢山コース」の2コースの参加者を募集します。参加者は一人でもグループでも受け付けています。おおいにご参加ください。



参加者募集

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

- 日 時 平成21年10月3日(土)～10月4日(日)
- 集 合 南アルプス芦安山岳館 午前10時40分(南アルプス市芦安芦倉1570番地)
- 宿 泊 北沢駒仙小屋
- 山 名 甲斐駒ヶ岳(かいこまがたけ) 2,967m ★健脚向き
栗沢山(くりさわやま) 2,714m
- 装 備 初冬の山用の防寒・防風装備をご用意ください
手袋 耳が覆える帽子 ウィンドブレーカー 雨具(防寒着と兼用する) 行動食 ヘッドライト
- 注意事項 ◆天候の悪化によりルートの変更または中止する場合があります。
◆出発後の体調不良及び登山不適と認められた方は、状況に応じてコース変更または、スタッフ同伴で下山していただくことがありますのでご了承ください。

お申込は

- 参加条件 健康で登山が可能の方
- 参加費 ¥19,000/1人(宿泊費1泊2食・乗合バス・市営バス乗車料金・保険料・入浴券他)
◆下山後、芦安駐車場に隣接する白峰会館で入浴をお楽しみください。
◆予約金は不要ですが最終日以後の欠席はキャンセル料¥5,000をいただきます。
- 定 員 各20名(先着順)
- 最終日切 平成21年9月25日(金)
- 申込方法 電話またはFAXで。
下記のことを明示してお申し込みください。
◆住所、氏名、年齢、電話番号
◆登山経験のある方は「登った山の事など」お知らせください。
◆健康状態や気になる事はありますか。
- 申し込み・問い合わせ先 芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地
Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162